

麻布未来写真館

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成27年度活動報告
港区麻布地区総合支所

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成27年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成28年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに	01
I. 分科会活動の概要	02
「麻布未来写真館」とは	02
パネル展の開催	03
II. 分科会メンバー作成パネルの紹介	05
パネルの作成	05
III. これまでの活動を振り返って	30
メンバーのことば	30
IV. 参考資料	35

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成28年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区版計画推進支援」・「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

I 分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 27 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施し、3 会期に分けてパネル展を開催しました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 28 年 3 月 1 日現在）

天羽 大器、荒澤 経子、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、
櫻井 綾、鈴木 順二、田岡 恵美、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子、吉川 一郎

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでに引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から7か年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方々から、写真等のご提供、多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を3期にわたり、延べ5会場で開催しました。

また、常設の展示として、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所2階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行いました。

パネル展スケジュール

◆第1期パネル展

- 会場①：フジフィルム スクエア ミニギャラリー
平成28年2月5日(金)～2月18日(木) 10:00～19:00
- 会場②：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー
平成28年2月15日(月)～2月26日(金) 8:30～17:00

◆第2期パネル展

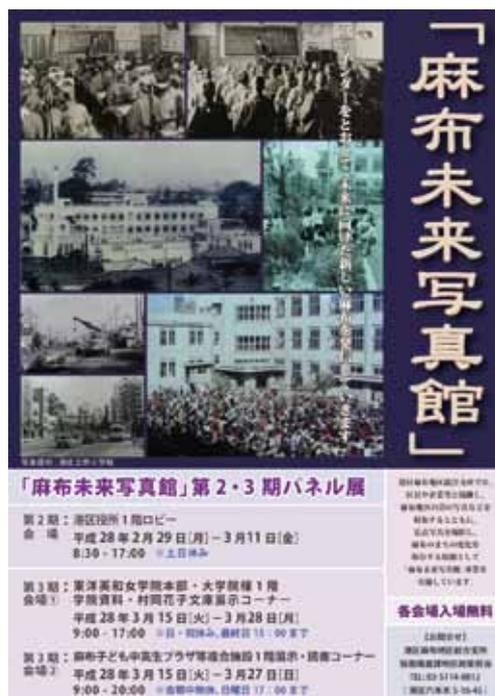
- 会場：港区役所 1階 ロビー
平成28年2月29日(月)～3月11日(金) 8:30～17:00

◆第3期パネル展

- 会場①：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー
平成28年3月15日(火)～3月28日(月) 9:00～17:00
- 会場⑤：麻布子ども中高生プラザ等複合施設 1階 展示・読書コーナー
平成28年3月15日(火)～3月27日(日) 9:00～20:00



第1期パネル展ポスター



第2期・第3期パネル展ポスター

会場提供等、ご協力いただいた方々からのメッセージ

島田 知明(フジフィルム スクエア 館長)

フジフィルム スクエアでの「麻布未来写真館」パネル展には、毎年多くのお客様にご来館いただき楽しんでいただいております。地元のご来館者様には、展示された写真がご自宅近くだったり、古くからご存知の場所で懐かしんでおられたり、ご近所ではなくても同時代の記憶を語りあっていただいたり、時を超えた今昔の記録としての写真の役割を再認識いたします。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての準備のためか、新築ビルの工事や施設の建替え工事なども、心なしか増えているようで、麻布の街並みも日々変化していきます。「麻布未来写真館」の事業が、社会的・文化的に意義の高い事業であると改めて感じ入ると共に、街の歴史はそのまま人の生活の歴史であることを思うと、麻布の皆さんの気持ちに寄り添った本事業に、弊館も微力ながらもご協力させていただきたいと存じます。

酒井 ふみよ(東洋英和女学院史料室)

あちらこちらで町が変貌していく中、本校がかつての風景から麻布の物語を知ることのできる「麻布未来写真館」パネル展の会場となるのも6回目となりました。

今年度は展示コーナーを一新して「学院資料・村岡花子展示コーナー」に模様替えして最初の「麻布未来写真館」パネル展でした。展示スペースの制約がありましたが、落ち着いた雰囲気、本校の企画展と合わせて見学していただけたことは幸いでした。

学院が麻布のこの地に歴史を重ねてこられたことをあらためて感謝し、今後も協力していきたいと願っています。

パネル展示にあたってのメッセージ

平成28年3月15日(火)からの第3期パネル展にあたり、会場提供等のご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で6回目の参加となりました。長年にわたりこの地で女子教育に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様方の温かいご理解、ご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために1884年(明治17年)に設立された学校です。今年で創立132周年を迎えています。

幸いなことに、学院は太平洋戦争の空襲時にも戦火を免れて、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

このようなパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、地域の皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

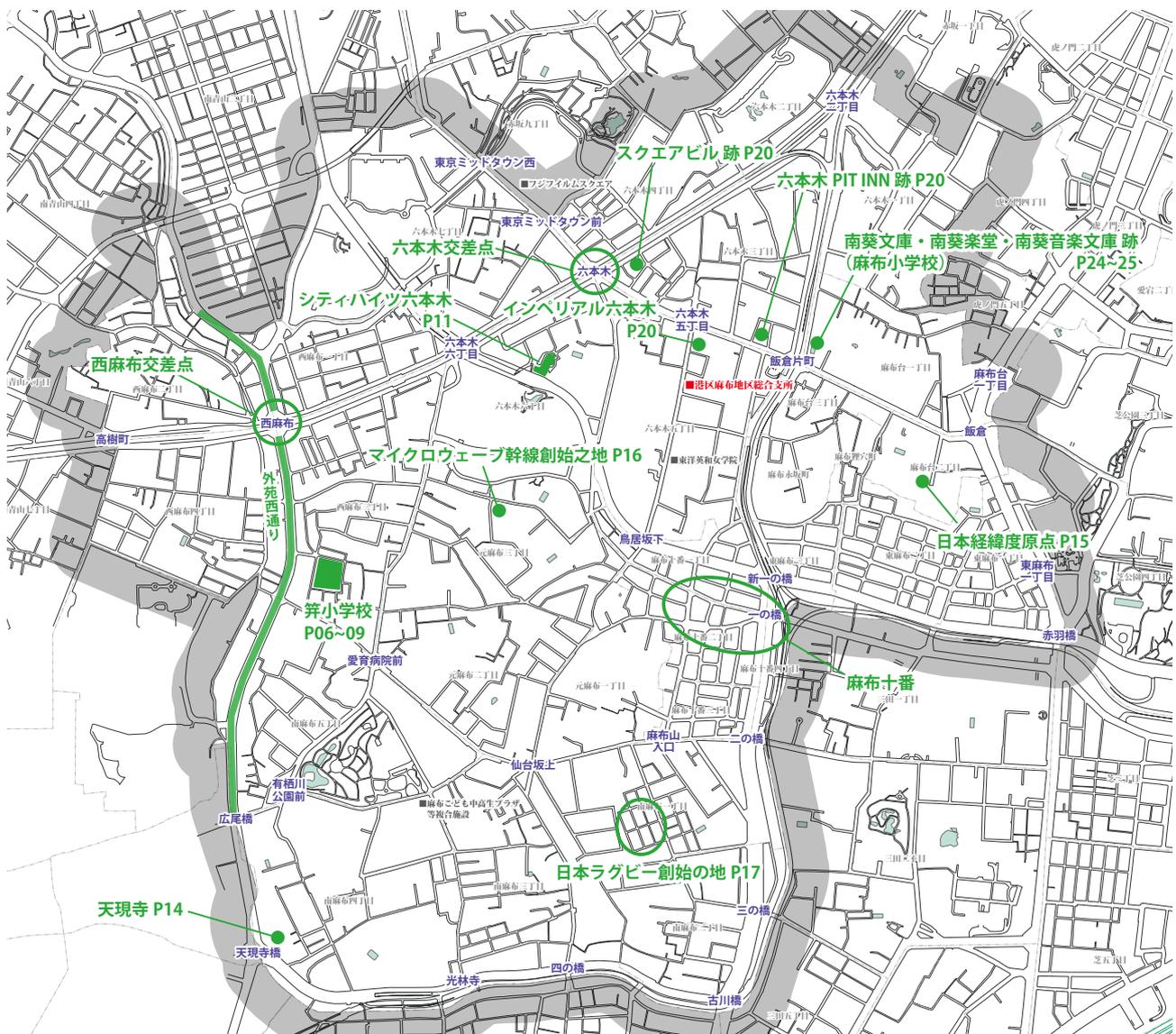
平成28年3月吉日
東洋英和女学院 院長 深町 正信

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き(撮影)」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「Ⅱ. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



<写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有(車等)の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。



昭和 11 年(1936 年)：南から見た校舎

この頃 3 階建ての建物は珍しく、見晴らしの良い屋上も大人気でした。普通教室だけでなくたくさんの特別教室もできました。



明治時代：脇門(左)・表門(右)

学校の門は表・脇と二つに分かれていて、表の正門からは男子が、脇の門からは女子が登校しました。門だけでなく、玄関も校舎の両側に二つあり、げた箱も別々になっていました。勉強するときも男子組と女子組に分かれていました。



昭和 45 年頃(1970 年頃)



昭和初期：木造校舎と鉄筋校舎



昭和 51 年(1976 年)：
改築中に使われた仮設校舎



平成 28 年(2016 年)：現在の校舎

筈(こうがい)小学校は、東京市筈尋常高等小学校として明治 40 年(1907 年)に開校しました。2 階建ての木造校舎でした。

大正 14 年(1925 年)末に、東・南・西の三方に、鉄筋 2 階(一部 3 階)の校舎が落成し、その後しばらく木造校舎と併用されました。

昭和 10 年(1935 年)には北側にも鉄筋校舎が完成し、東に開けたコの字型の鉄筋校舎は、大戦の戦火をくぐり抜けて昭和 49 年(1974 年)まで使われました。

現在の 4 階建て校舎は、昭和 51 年(1976 年)に完成したものです。



明治43年(1910年)：男子、理科の学習



大正時代：女子、歴史の勉強



昭和6年(1931年)：屋内体操場屋上での運動



昭和47年(1972年)：筭公園(理科学習)



明治45年(1912年)：兵式訓練の様子
筭小学校が誕生して数年経ったころの写真です。校舎は木造で、校庭には砂利が敷きつめられていました。体育の時には、学校に用意してある木で作った「てっぽう」を使って、兵式訓練も行われていたようです。



大正9年(1920年)：女子の体操の授業
体育の時間でも体操着や運動靴には着替えず、着物に袴(はかま)のままです。

大正時代までは、男女とも木綿の羽織を着て、袴をはいていました。男子は坊主頭、女子は髪を腰までのばして多くはリボンをつけていました。昭和に近づくと、男子は半ズボン、女子はスカートの洋装に変わってきました。昭和45年(1970年)に学校の隣に筭公園ができると、公園の一部を使って理科の学習などが行われました。

このページに掲載されている古い写真について／写真提供：港区立筭小学校



昭和34年(1959年)：霞町(西麻布)交差点方面を見る
筈小学校西側の大通り(外苑西通り)は、昔は半分が路面電車の通る軌道でした。



昭和38年(1963年)：霞町(西麻布)交差点方面を見る
地下鉄日比谷線の工事風景です。この写真から1年後、東京オリンピックの年に霞ヶ関～恵比寿間などが開通しました。



昭和47年(1972年)：右上の写真とほぼ同じ地点



昭和23年頃(1948年頃)：西から見た筈小学校



昭和42年(1967年)：登校風景 日赤病院下

中段右の写真では、中央奥の電柱が立っているところが現在の外苑西通りです。右端の人物は富井宗雄先生。先生は明治41年(1908年)筈尋常小学校に赴任され、大正11年(1922年)に校長となりました。以来およそ26年間、大戦中の困難な時代をはさんで昭和23年(1948年)まで、筈小学校のために尽くされました。



このページに掲載されている古い写真について / (写真左上) 出典：『増補 写された港区三(麻布地区編)～麻布・六本木～ほか』
(写真右上) 写真提供：前田三枝子氏、(写真中・下) 港区立筈小学校、



昭和 47 年(1972 年)：西麻布交差点(筭坂 坂下から)



平成 9 年(1997 年)：西麻布交差点



(左)昭和 50 年(1975 年)：筭坂 坂下から、(中)昭和 30 年代：霞町交差点
(右)平成 26 年(2014 年)：西麻布交差点(六本木方面)



昭和 52 年(1977 年)：西麻布交差点(六本木方面)



平成 9 年(1997 年)：西麻布交差点

最近の麻布(けやき坂・六本木ヒルズ周辺)



平成 27 年(2015 年) 5 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年) 5 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年) 3 月：さくら坂



平成 27 年(2015 年)12 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年)10 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年) 6 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年)12 月：けやき坂



平成 27 年(2015 年) 6 月：六本木ヒルズ



平成 27 年(2015 年) 3 月：六本木ヒルズ



平成 27 年(2015 年)12 月：六本木ヒルズ

Check out the sound "ケヤキ坂イルミネーション" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4326>



Check out the sound "六本木ヒルズのお正月" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4860>



Check out the sound "RH Waterfalls" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4338>



麻布地区の音は、パイオニア株式会社のご協力により、Pioneer Sound Lab. に投稿、セレクトされた音風景からお届けしています。
 Pioneer Sound Lab. (Pioneer Global Sounds)：音を聴いて、感じて、表現するサウンドエンタテインメントスペース、それが "Sound Lab." です。あなたも "Sound Lab." を通じて、音が持つその味わい深さを感じてみませんか？

- Pioneer sound lab. http://pioneer.jp/corp/crdl_design/soundlab/
- Pioneer sound lab Facebook. <https://www.facebook.com/pioneer.soundlab/>
- Global Sounds iPhone アプリ .http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html

最近の麻布（区営住宅建て替え）



平成 28 年(2016 年) 1 月



平成 27 年(2015 年)12 月



平成 27 年(2015 年) 9 月



平成 27 年(2015 年) 5 月



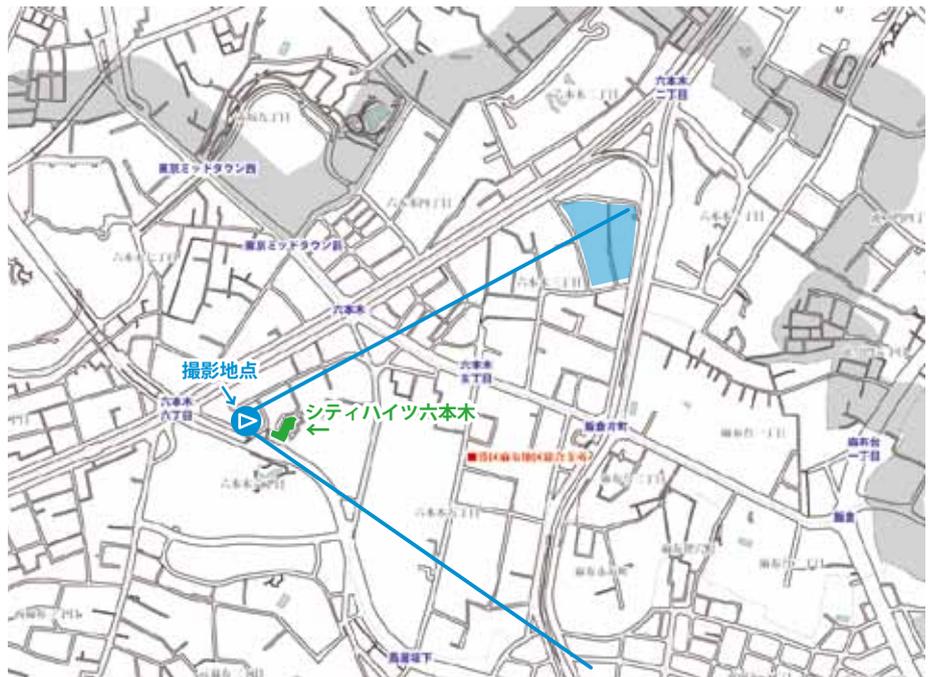
平成 27 年(2015 年) 7 月



平成 27 年(2015 年) 8 月



平成 27 年(2015 年) 3 月



平成 27 年(2015 年) 2 月

最近の麻布（麻布十番）



平成 27 年 (2015 年) 8 月：一の橋交差点



平成27年(2015年)6月：麻布十番駅前バス停



平成27年(2015年)12月：麻布十番駅前バス停



平成 27 年 (2015 年) 6 月：一の橋交差点
(平成 27 年 (2015 年) 3 月に「麻布通り」道路案内表示板設置除幕式が開催されました)



平成 27 年 (2015 年) 7 月：一の橋交差点



平成 27 年 (2015 年) 12 月：一の橋交差点



平成27年(2015年)8月：麻布十番納涼まつり



平成 27 年 (2015 年) 11 月：十番稲荷神社 酉の市



平成 27 年 (2015 年) 8 月：麻布十番納涼まつり



平成 27 年 (2015 年) 12 月：麻布十番駅

Check out the sound " 麻布十番の夏の音 " in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4682>



Check out the sound " 英語と日本語でガマの油売り " in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4681>



Check out the sound "DJ polis @ Azabu" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=3719>



麻布地区の音は、パイオニア株式会社のご協力により、Pioneer Sound Lab. に投稿、セレクトされた音風景からお届けしています。Pioneer Sound Lab. (Pioneer Global Sounds)：音を聴いて、感じて、表現するサウンドエンタテインメントスペース、それが "Sound Lab." です。あなたも "Sound Lab." を通じて、音がつ持つ味わい深さを感じてみませんか？

- Pioneer sound lab. http://pioneer.jp/corp/crdl_design/soundlab/
- Pioneer sound lab Facebook. <https://www.facebook.com/pioneer.soundlab/>
- Global Sounds iPhone アプリ [.http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html](http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html)

麻布のサイクル（自転車・原付など）

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



西麻布付近



麻布運動場付近



西麻布付近



六本木ヒルズ



アークヒルズサウスタワー



元麻布付近



西麻布付近



西麻布付近

港区自転車シェアリング

平成 26 年(2014 年)10 月 1 日から始められた港区自転車シェアリングは、区内での 24 時間利用可能な電動アシスト付自転車のレンタルサービスです。区内のサイクルポートは平成 28 年(2016 年)2 月現在、28 か所あります。

さらに利用範囲を広げる、港区、千代田区、中央区、江東区の 4 区での「4 区連携による広域相互利用実験」が平成 28 年(2016 年)2 月 1 日から行なわれています。

有料（1 回会員）
 最初の 30 分 150 円
 延長料金 100 円 / 30 分毎
 ※利用には会員登録が必要です。
 月額会員・1 日パス等もあります。

このページに掲載されている写真について / 写真撮影：平成 27 年(2015 年)

天現寺

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 28 年(2016 年)：本堂

本尊・毘沙門天の生まれが寅年寅月寅日であったことから、本堂前には雌雄一対の虎の像がある。



平成 28 年(2016 年)：本堂前の虎の像



平成 28 年(2016 年)：山門



平成 28 年(2016 年)：庭園内の手水鉢

刻まれている文字から、浜松城主で、天保の改革を行った水野越前守忠邦から贈られたものと推察される。



平成 27 年(2015 年)

さりげなく置かれた小さな仏像。



平成 28 年(2016 年)

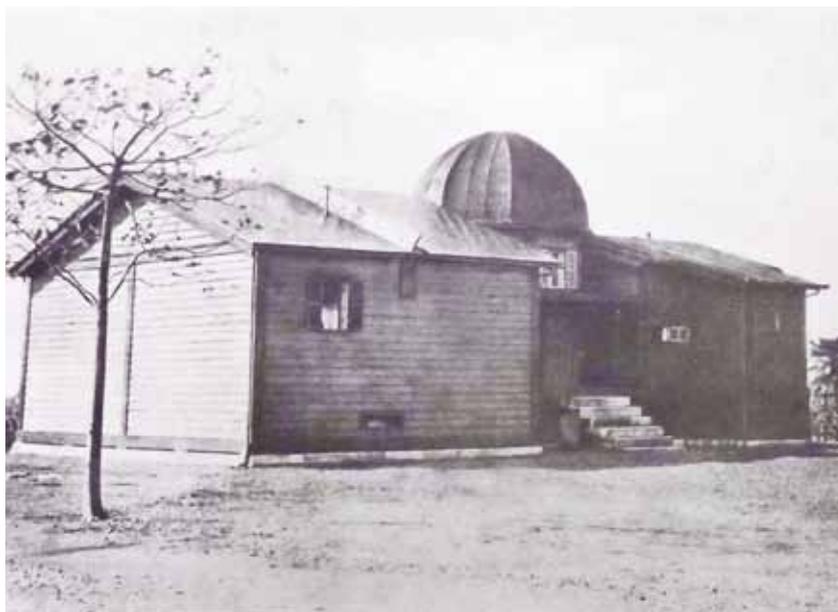
こんなかわいい置物も。



平成 27 年(2015 年)：芭蕉の句碑

天現寺は享保 4 年(1719 年)に建立された寺院で、本尊として毘沙門天の像をまつている。毘沙門天は多門山ともいわれる四天王のひとりで、七福神のひとりにも数えられている。憤怒の表情、左手に宝塔を捧げ、右手に矛を持ち、甲冑で身を固めた姿で知られている。天現寺の本尊はケヤキの木造で、高さは約 1 メートル、平安後期の作と推定されている。

はじめは麻布から(海軍観象台)



明治 16 年頃(1883 年頃)：海軍観象台

海軍観象台は、今の麻布台二丁目にある日本経緯度原点(国土地理院)の地にあった。

明治 5 年(1872 年)11 月に麻布飯倉の戸沢邸と石井邸の一部を買い入れ、小規模ながら施設を設立。これが海軍観象台の発端となった。その後、アメリカ、フランス、メキシコの観測の申し入れを受け、明治 7 年(1874 年)の金星の太陽面通過の観測を共同で行った。この観測は日本の東京、横浜、神戸、長崎で同時に行うことにより、今まで正確にわかっていなかった、太陽と地球との距離を正確に割り出すことができた(1 天文単位)。

また、観象台の経緯度を正確に測量し日本経緯度原点とした。



明治 7 年(1874 年)：金星日面通過観測



明治 25 年頃(1892 年頃)：東京大学東京天文台

明治 21 年(1888 年)6 月、この観象台の地、麻布に東京天文台を設立。海軍省水路部の天象観測および内務省地理局業務の天象観測、遍歴事業ともに東京天文台に移管。

大正 12 年(1923 年)9 月、関東大震災が発生。火災はまぬがれたものの、施設および観測機器に大損傷を受け、これを契機に三鷹への移転が急速に進んだ。



昭和 34 年頃(1959 年頃)：東京大学天文学教室と日本経緯度原点

麻布の天文台用地に残された建物・観測器械は東京大学理学部天文学教室の所属となり学生の講義・実習にあてられた。昭和 20 年(1945 年)5 月戦災で焼失。その跡にはバラックが建てられ、昭和 35 年(1960 年)4 月の本郷移転まで、天文学教室はこの地に存続した。

上の写真の中⑩に日本経緯度原点が見られる。



日本経緯度原点の原点数値は、明治 25 年(1892 年)に東京天文台の経緯度観測の観測台である子午環の中心に定められた。その後、大正 12 年(1923 年)の関東大震災により子午環が崩壊したため、昭和 36 年(1961 年)にその位置に金属標を設置し、日本経緯度原点を再現した。

平成 27 年(2015 年)：日本経緯度原点

はじめは麻布から(マイクロウェーブ幹線創始之地)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和 30~40 年代頃：東京統制無線中継所



昭和 30~40 年代頃：東京統制無線中継所



昭和 27 年(2015 年)：マイクロウェーブ幹線創始之地



平成 27 年(2015 年)：元麻布三丁目付近

東京統制無線中継所は通称「TRC」(Television Relay Center)といわれているが、これは現在の港区青山に局舎ができてからで、以前は「東端」と呼ばれていた。

昭和 29 年(1954 年) 4 月：我が国最初の東京—大阪間長距離マイクロ回線の東京側端局として港区麻布宮村町(現在の元麻布三丁目付近)に開設。東端から出るマイクロ回線は東名阪のほか、仙台、札幌方向や、金沢、新潟方面と拡大され、電話、テレビの回線数もそれに応じて増大したため局舎が狭くなった。

昭和 38 年(1963 年)11 月 22 日：ケネディ暗殺速報の宇宙中継電波を放送する。

昭和 39 年(1964 年)：東京オリンピックを契機に、テレビ部門は宮村町から現在の青山に移転。マイクロ端局部門とテレビ部門の 2 頭立てで運営。渋谷、蔵前、唐ヶ崎、十条に統制無線中継所が設立。

昭和 48 年(1973 年)：宮村のマイクロ端局は幕を閉じた。



平成 27 年(2015 年)：元麻布三丁目付近

参考文献：「東京統制無線中継所」(岡田秀夫執筆、『テレビジョン』第 31 巻第 3 号、1977 年 3 月)
このパネルの古い写真について／写真提供：東日本電信電話株式会社

はじめは麻布から（日本ラグビー創始の地）

2015年ラグビーワールドカップで日本は3勝という快挙を成し遂げた。

日本ラグビーは明治32年(1899年)秋、麻布仙台ヶ原で慶應義塾の塾生による練習で誕生した。伝授したのはこの年の1月に慶應義塾の英語講師として来日していたE・B・クラークと田中銀之助である。二人とも英国の名門ケンブリッジ大学の出身。田中銀之助は麻布市兵衛町の屋敷に住んでいた。



クラーク氏



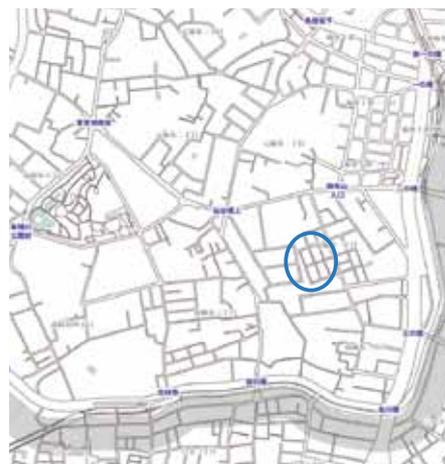
中央白服左がクラーク氏、右が田中氏



江戸時代



明治42年頃(1909年頃)



現在の南麻布一丁目

練習場の場所は、現在の南麻布一丁目付近。旧町名では竹谷町である。

慶應ラグビー百年史に地図があるが、これによると、現在の韓国大使館(当時は松方邸)の南側である。つまり仙台台下付近であるが、この辺りにラグビーができる平地があるのかを確認した。

江戸時代の古地図では青い○付近になる。元々仙台藩の下屋敷であり、明治頃も原っぱだったのかもしれない。その後は民家や小さい工場が立つようになった。(その頃の風景は高見順の小説『わが胸の底のここには』に詳しい)。

右の写真①は仙台台下方面を写している。平地ではあるが、写真左手には崖があり、それ程広くは無い。ラグビー場程の広さは無いが練習場があったのかもしれない。

右の写真②は崖上(西側)から仙台ヶ原と思われる場所を写した風景である。



①南麻布一丁目 仙台坂下方面



②崖上から

参考文献：『慶應義塾体育会蹴球部百年史』 このパネルの古い写真について／写真提供：慶應義塾体育会蹴球部黒黄会

麻布の音楽(南山ジャズバンド)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 27 年(2015 年)：南山ジャズバンド(小学生) パティオ十番でのコンサート

南山ジャズバンドのポスター
第7回「スプリングコンサート」



平成 27 年(2015 年)：アザバン



平成 27 年(2015 年)：アザバン



平成 27 年(2015 年)



平成 27 年(2015 年)：パティオ十番



平成 27 年(2015 年)：練習風景



平成 27 年(2015 年)：練習風景

Check out the sound "大人のJAZZ祭り" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4685>



Check out the sound "AZABU de mambo?" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4684>



Check out the sound "小学生JAZZバンドで盛り上がる" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4683>



麻布地区の音は、パイオニア株式会社のご協力により、Pioneer Sound Lab. に投稿、セレクトされた音風景からお届けしています。Pioneer Sound Lab. (Pioneer Global Sounds)：音を聴いて、感じて、表現するサウンドエンタテインメントスペース、それが"Sound Lab."です。あなたも"Sound Lab."を通じて、音が持つその味わい深さを感じてみませんか？

- Pioneer sound lab. http://pioneer.jp/corp/crdl_design/soundlab/
- Pioneer sound lab Facebook. https://www.facebook.com/pioneer_soundlab/
- Global Sounds iPhone アプリ http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html



さくら(六本木七丁目付近)



さくら(青山公園)



ウメとメジロ



ロボット公園のさくら



雁木坂のさくらと東京タワー



雁木坂のさくら



かかしまつり(東麻布)

Check out the sound
"祭がだんだんとほじまりました。"
in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4774>



Check out the sound
"東麻布かかし祭りの太鼓"
in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4773>



麻布地区の音は、パイオニア株式会社のご協力により、Pioneer Sound Lab. に投稿、セレクトされた音風景からお届けしています。
Pioneer Sound Lab. (Pioneer Global Sounds) : 音を聴いて、感じて、表現するサウンドエンタテインメントスペース、それが "Sound Lab." です。あなたも "Sound Lab." を通じて、音が持つその味わい深さを感じてみませんか？

- Pioneer sound lab.
http://pioneer.jp/corp/crdl_design/soundlab/
- Pioneer sound lab Facebook.
<https://www.facebook.com/pioneer.soundlab/>
- Global Sounds iPhone アプリ.
http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html



けやき坂から東京タワー



平成 28 年(2016 年) : 「スクエアビル」跡

六本木 PIT INN

昭和 52 年(1977 年)、外苑東通り沿いのビルの地下 1 階に開店。フュージョン界の二大ギタリスト、リー・リトナー、ラリー・カールトン、日本を代表するサックスプレーヤー、渡辺貞夫をはじめ、山下達郎、吉田美奈子、坂本龍一、高中正義、上田正樹、柳ジョージ、桑名正博、桑名晴子、金子マリなど、錚々たるアーティストがライブを行なってきた。夜になると、ビルの角にあった入り口の上部に赤く浮かんで見えた「PIT INN」のロゴは、灯りのともった東京タワー同様、街の風景の一部だった。

平成 16 年(2004 年)、ビル建て替えのため、六本木 PIT INN は 27 年の歴史に幕を下ろした。

スクエアビル

映画「サタデー・ナイト・フィーバー」の大ヒットにより、世界的なディスコブームが巻き起こった 1970 年代後半から、90 年代前半にかけて、六本木には数多のディスコがあった。なかでも、地下 2 階から地上 10 階までほとんどがディスコ、というスクエアビルは名所的な存在で、どの店も週末になると人であふれていた。

80 年代後半からのバブル景気の崩壊に伴ってディスコブームも終焉を迎え、多くのディスコは閉店した。

スクエアビルにあった主なディスコ

キャステル、ファーマーズ・マーケット、ギゼ、サンバクラブ、スタジオ・ワン、チャクラマンダラ、ネペンタ、フーフー、キワニス、キッスレディオ、バレンティノス、玉椿、など。



平成 28 年(2016 年) : 「六本木 PIT INN」跡



昭和 58 年(1983 年) : インペリアル六本木



ジャズ、ロック、ソウル、ラテン、シャンソン…さまざまな音楽に彩られたレストランやバー、ライブハウス。演劇、ミュージカル、映画のレイトショーなど。麻布には、ネオンの輝きとともに幕を開ける豊かなナイトカルチャーがある。青春時代にディスコサウンドにときめき、最先端のクラブやライブハウスでエネルギーや熱気を体感した、そんな思い出をもつ人も少なくないかもしれない。

ナイトカルチャーを通して、ひと昔前の麻布をふりかえり、今を見つめてみた。

麻布のナイトカルチャー、今昔②



平成 28 年(2016 年)：西麻布交差点

1980 年代から 90 年代にかけて、レッドシューズやトゥールズバー、P・ピカソといった、先駆的なカフェバーやクラブなどが点在していた。



平成 27 年(2015 年)：六本木交差点
秋の風物詩となったハロウィンナイト



平成 27 年(2015 年)：けやき坂イルミネーション
冬の夜に咲く華



平成 27 年(2015 年)：西麻布三丁目「カサ・デル・ハボン」跡

古い洋館を改装し、平成 6 年(1994 年)に開店したレストラン、カサ・デル・ハボン。1000 日間の限定営業を予定していたが、隠れ家的な店の先駆けとして多くの人に愛され、平成 16 年(2004 年)の春、老朽化のため建物が取り壊しとなるまで、その灯りをともし続けた。

洋館は昭和 3 年(1928 年)に外交官・芳澤謙吉氏の私邸として建てられたもので、戦後、進駐してきた連合軍に接收されロシア人将校の居留所となり、その後は、台湾や香港関係の貿易会社が事務所として利用したり、中国大使公邸として使われていた時代もあったという。芳澤氏は元国連難民高等弁務官・緒方貞子氏の祖父にあたる。

夜の麻布の街が舞台になっている歌、あれこれ

曲名	アーティスト	リリース
六本木あたり	あい & AKI	昭和 56 年(1981 年)
六本木心中	アン・ルイス	昭和 59 年(1984 年)
六本木ララバイ	内藤やす子	昭和 59 年(1984 年)
六本木ワルツ	フランク永井	昭和 60 年(1985 年)
雨の西麻布	とんねるず	昭和 60 年(1985 年)
六本木レイン	研ナオコ	昭和 60 年(1985 年)
六本木純情派	荻野目洋子	昭和 61 年(1986 年)
AZABU	矢沢永吉	平成 7 年(1995 年)
六本木海峡	すぎもとまさと	平成 22 年(2010 年)
六本木星屑	伊藤美裕	平成 23 年(2011 年)
口説きながら麻布十番	SDN48、みのもんた	平成 23 年(2011 年)
雨の六本木	DEEN	平成 25 年(2013 年)
六本木界限・夢花火	山内恵介	平成 27 年(2015 年)

◆このほか、麻布十番や六本木が登場する歌に「暗闇坂むさび変化」(はっぴいえんど / 昭和 46 年(1971 年))、「六本木のベンちゃん」(小林克也 & ザ・ナンバーワン・バンド / 昭和 57 年(1982 年))、「しあわせて何だっけ」(明石家さんま / 昭和 61 年(1986 年)) などがある。

◆「湯の町エレジー」「別れの磯千鳥」などのヒット曲で知られる歌手で作曲家の近江俊郎氏(1918 年～1992 年)は弁小学校出身。

ハロウィン(麻布フェスタ)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布地区総合支所が実施する地域事業「麻布フェスタ」の取組の1つとして、「麻布フェスタ in 六本木ハロウィン」が平成 27 年 10 月 24 日、25 日に実施されました。10 月 24 日は、六本木ハロウィンのパレード用に、ファッションデザイナーが実際に使用する生地やリボン等を用いてマントや帽子、簡単な衣装をアーティストと一緒に作るワークショップを実施しました。

また、翌日 25 日は、前日に制作した衣装を身に着けて、六本木商店街振興組合が主催する「ROPPONGI HALLOWEEN 2015」のパレード(1.7 キロメートル)に「麻布フェスタチーム」として参加しました。

2 日間併せて、100 名を超える方に参加していただきました。

ハロウィンに麻布地区に集まった人々（昼と夜）



パティオ十番付近



パティオ十番付近



パティオ十番付近



六本木ヒルズアリーナ付近



六本木ヒルズアリーナ付近



六本木ヒルズアリーナ付近



六本木ヒルズアリーナ付近



六本木ヒルズアリーナ付近



六本木ヒルズアリーナ付近



外苑東通り付近



外苑東通り（六本木5丁目交差点）



けやき坂付近 パティオ十番付近



六本木交差点付近



六本木交差点付近

あいにくの冷たい強風の中、思い思いに仮装した若者や家族連れが集まった昼のハロウィンパレード。多くのギャラリーとともにイベントを楽しむ笑顔が麻布から六本木にあふれた。うってかわって夜から早朝にかけては、大量の若者が六本木に集中、路上の各所もハロウィンで盛り上がった。翌朝ほどなくして清掃され、日常を取り戻した。

麻布飯倉の地に、明治・大正時代に紀州徳川家の屋敷が置かれていた。

その時期の当主は徳川茂承(もちつぐ)、頼倫(よりみち)、頼貞(よきさだ)3世代にわたっていたが、特に第15代頼倫、第16代頼貞親子は近代日本における図書館、そして日本初の音楽図書館を設立し、先駆的な存在として意義深い活動を行った。彼らの活動と意義、その後を辿る。

明治41年(1908年)、徳川頼倫侯爵邸の一部、現在の麻布小学校の地に設置された南葵文庫が一般公開された。これは公立図書館の設立が徐々に増えていく中で、私設しかも個人による設立は希有な例であった。(同年11月に東京市立日比谷図書館が開館、翌明治42年(1909年)東京市立深川図書館が開館。)

それに先立つ明治29年(1896年)、頼倫は、伏見宮貞愛親王の随従としてロシア皇帝ニコライ2世の戴冠式に参加し、その後ケンブリッジ大学に2年間学ぶ。その英国滞在中及び帰国時の欧米諸国の視察により、図書館が重要な役割を果たしている様を見て、図書館建設及び運営を強く決意したのであった。帰国後の明治31年(1898年)には家蔵の書物の整理を指示し、図書館設立準備を始め、公開に至ったのであった。



平成28年(2016年)：麻布小学校

南葵文庫についての研究を続け、「南葵文庫 目学問・耳学問」という著書にまとめた坪田茉莉子氏によれば、南葵文庫の意義として

1. 先祖伝来の蔵書を一般公開した事
 2. 図書館活動を通し、一般の人々の啓発に努めた事
 3. 理想的な図書館建築を具現化した事
 4. 利用者の意見を積極的に取り入れて図書館運営を行った事
- 以上、4点を挙げている。南葵文庫と由来を同じくする徳川家康御譲本(おゆずりぼん)を基礎とする尾張徳川家蓬左文庫の公開はさらに数十年先の事であり、また当時の社会状況(子供の就学率、女性の地位、図書館数及び設備)を考えると、運営利用者の意見を聞く款話会や読書会、児童会など社会教育的イベントを開催し、きわめて先進的な取り組みであった。

南葵文庫については以下のサイトを参照
麻布地区の地域情報紙「ザ・AZABU 第17号」
<http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikusei/azabu/koho/documents/vol17-p01-p08.pdf>



南葵楽堂については以下のサイトを参照
麻布地区の地域情報紙「ザ・AZABU 第18号」
http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikusei/azabu/koho/documents/vol18_the_azabu.pdf



頼倫の息子頼貞は大正3年(1914年)、ケンブリッジ大学に入学し、音楽理論を学ぶ。

音楽堂の建築に熱意を持ち、帰国後に紆余曲折を経て、大正6年(1917年)、南葵文庫本館の南側に起工、翌大正7年(1918年)に竣工した。これは日本国内ではコンサートホール内にパイプオルガンを設置した初めての例であった。また、大正天皇の即位大礼を記念して「御大礼奉祝記念館」とも称された。

さらに南葵楽堂は、大正6年(1917年)に頼貞が購入したカミングズコレクションを中心として、「南葵音楽文庫」を地下1階に備えていた。これは日本における初の公共音楽図書館であった。ベートーヴェンの自筆譜、バッハ、ヘンデル等の手稿が含まれており、貴重な資料となっている。

南葵文庫及び南葵音楽図書館(文庫)共に貴重な図書館であったが、大正12年(1923年)9月1日に起きた関東大震災により運命が変わった。

東京帝国大学の図書館が震災後の火災により、図書館の蔵書をほぼ消失した。頼倫はこの事態を憂慮し、大学図書館復興のため南葵文庫の蔵書一切を寄贈した。東京帝国大学に寄贈された蔵書は9万冊余り、質・量ともに同大学図書館の根幹をなすものになったという。建物については旧館部分のみ移築され、それ以外は取り壊された。その旧館部分は大磯の徳川別邸に移築された後、改築されVILLA DEL SOL(太陽の館)と名付けられた。その後、旧野村財閥の創始者の手に渡り、取り壊しが検討された後、熱海老舗旅館「蓬萊」の尽力により取り壊しを回避され、長らく別館として使用された。

現在は民間ホテルに渡り、宿泊も可能である。

参考文献：『南葵文庫 目学問・耳学問』坪田茉莉子(郁朋社)2001 参考サイト：『南葵音楽文庫』(読売日本交響楽団) <http://yomikyo.or.jp/nanki/>
『麻布飯倉 南葵楽堂の記憶』(音楽フロンティアみなと 再発見コンサート実行委員会) <http://nankigakudo.blog60.fc2.com/>
『南葵音楽文庫資料紹介 「南葵文庫附属御大礼奉祝記念館大風琴」』(篠田大基) <https://note.mu/hshinoda/n/n8a02f80dffdc>
『南葵音楽文庫の出版活動』(篠田大基) <https://note.mu/hshinoda/n/nc4a6a85d3340>



平成 28 年 (2016 年) :
パイプオルガンが移設された旧東京音楽学校奏楽堂

以下のサイト上において、パイプオルガンの音色を試聴できる。
文化探訪 台東区文化ガイドブック「旧東京音楽学校奏楽堂を歩く 3」
http://www.taito-culture.jp/history/sogakudo/japanese/sogakudo_guide_03.html



南葵楽堂については大震災で倒壊し、修復不可能とされるほどの被害を受けた。頼貞は再建を断念し、パイプオルガンは東京音楽学校に寄附され、同校の奏楽堂に設置された。平成 28 年 (2016 年) 現在、奏楽堂は改修中のため閉館している。平成 30 年 (2018 年) を開館目処としている。

南葵音楽文庫は昭和 8 年 (1933 年)、慶應義塾図書館へ委託され、後に日本近代文学館で昭和 45 年 (1970 年) から 7 年間公開された。現在は読売日本交響楽団所蔵 (非公開) となっている。平成 18 年 (2006 年) から平成 20 年 (2008 年) にかけて、慶應義塾大学のデジタル・メディアコンテンツ統合研究機構により、貴重書のデジタルアーカイブ化や資料研究が進められ、貴重な資料の一部が同大学のウェブサイトで一般公開されている。

以下のサイト上において、南葵音楽文庫の一部が閲覧できる。
南葵音楽文庫所蔵貴重資料デジタルアーカイブ
<http://note.dmc.keio.ac.jp/music-library/nanki/>



南葵文庫及び南葵楽堂に関する略年譜		
明治 6 年 (1896 年)	7 月	麻布飯倉の上杉茂憲伯爵の旧中屋敷を購入。
明治 29 年 (1896 年)		頼倫はロシア皇帝ニコライ 2 世の戴冠式に参列する伏見宮貞愛 (さたはる) 親王の随従として参加。
明治 31 年 (1898 年)		頼倫が当主徳川茂承の許しを得て、家人に命じ家蔵の書物の整理、図書館設立の準備に着手。
	11 月	邸内の一隅、北西部約 1,460 坪を敷地とし、建設計画。
明治 32 年 (1899 年)	12 月	竣工 (旧館 木骨瓦張り漆喰塗りの西洋館)
明治 32 年 (1899 年)		徳川頼倫が日本初の西洋式図書館として南葵文庫を開庫。
明治 35 年 (1902 年)	4 月 12 日	開庫式
明治 41 年 (1908 年)	10 月 10 日	徳川頼倫侯爵邸の一部に設置された南葵文庫一般公開式。
大正 3 年 (1914 年)	2 月	頼貞ケンブリッジ大学に入学して音楽理論を学ぶ。
		文庫員を図書館視察のために海外派遣 (イギリスの大学での図書館学聴講、英・仏・ベルギー・蘭・米各地の図書館を巡歴)。
大正 6 年 (1917 年)	3 月 24 日	音楽堂 起工
	5 月	頼貞、ロンドンのオークションにかけられた「カミングス・コレクション」を落札し、「南葵音楽文庫」に収める。
大正 7 年 (1918 年)	7 月 30 日	音楽堂 起工
	10 月 27 日	南葵楽堂 落成開堂式
	10 月 27・28 日	第 1 回演奏会
大正 9 年 (1920 年)	11 月 9・10 日	大礼 (祝賀) 記念館における第 1 回講演会 開催。
	10 月	パイプオルガンが完成。
大正 12 年 (1923 年)	11 月 22・23 日	パイプオルガンの披露演奏会の開催。
	9 月 1 日	関東大震災 発災 南葵楽堂は修復不可能となるほど倒壊。
大正 12 年 (1923 年)	12 月	ほとんどの蔵書を消失した東京帝国大学に、南葵文庫の総てを寄附することを公表。
	5 月 31 日	南葵文庫閉鎖
大正 14 年 (1925 年)	5 月 19 日	頼倫 死去
昭和 3 年 (1928 年)	12 月 1 日	東京帝大の図書館が完成し、落成式を行う。南葵文庫からの書物の移送も完了。
昭和 8 年 (1933 年)	11 月	南葵文庫跡地に、鉄筋コンクリート 3 階建ての麻布麻中尋常小学校 (現在の麻布小学校) の校舎が完成。
		南葵文庫旧館は、徳川頼貞の別邸として大磯の旧紀州藩領内に移築され、「VILLA DEL SOL (太陽の館)」と名付けられる。
昭和 11 年 (1936 年)		松浦武四郎の一畳敷の建物は茶室と共に山田敬亮によって三鷹へ移築された。
昭和 18 年 (1943 年)		VILLA DEL SOL、旧野村財閥の創始者野村徳七の手に移る。
昭和 29 年 (1954 年)	4 月 17 日	頼貞 死去
昭和 42 年 (1967 年)	3 月	上野松坂屋にて、カミングス・コレクション一般公開。
昭和 50 年代		VILLA DEL SOL、建物の老朽化が進み、取り壊されることになったが、熱海伊豆山温泉の旅館「蓬莱」の女将古谷青遊が旅館別館として移築することを決断。

南葵文庫の裏庭に建てられた松浦武四郎の一畳敷の建物は、震災の被害を免れ無傷で残り、代々木上原の新徳川邸内に移築された。日本中の歴史的建造物の古材を使った茶室を建てようと頼倫は考えていたが、頼倫が死去し完成を見ることは無かった。「高風居」と名付けられたその茶室は後に三鷹へ再び移築され、現在は国際基督教大学において「泰山荘」の一部として保存されている。



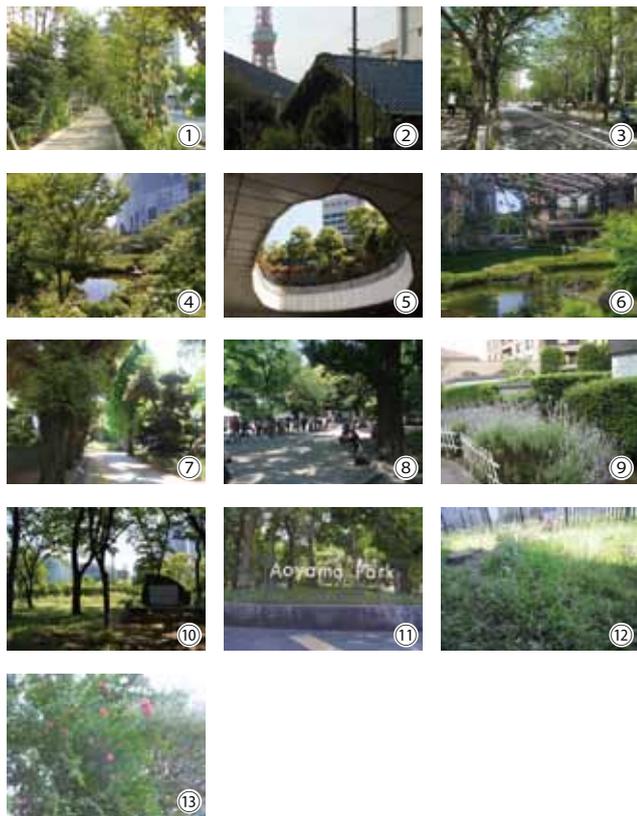
平成 27 年 (2015 年) : 高風居

参考サイト : 『南葵音楽文庫』 (読売日本交響楽団)
<http://yomikyo.or.jp/nanki/>

『麻布飯倉 南葵楽堂の記憶』 (音楽フロンティアみなと再発見コンサート実行委員会)
<http://nankigakudo.blog60.fc2.com/>

『南葵音楽文庫資料紹介 「南葵文庫附属御大札奉祝記念館大風琴」』 (篠田大基)
<https://note.mu/hshinoda/n/n8a02f80dffdc>
『南葵音楽文庫の出版活動』 (篠田大基)
<https://note.mu/hshinoda/n/nc4a6a85d3340>

麻布の緑（麻布地区の公園と街路樹）



- ①：六本木一丁目付近
- ②：麻布台付近
- ③：六本木一丁目付近
- ④：毛利庭園
- ⑤：六本木ヒルズ付近
- ⑥：毛利庭園
- ⑦：有栖川宮記念公園
- ⑧：有栖川宮記念公園
- ⑨：公開空地(元麻布)
- ⑩：都立青山公園
- ⑪：都立青山公園
- ⑫：都立青山公園(ヘリポート脇)
- ⑬：天真寺(南麻布)

撮影年：平成 27 年(2015 年)

麻布の緑（名勝・巨木等）

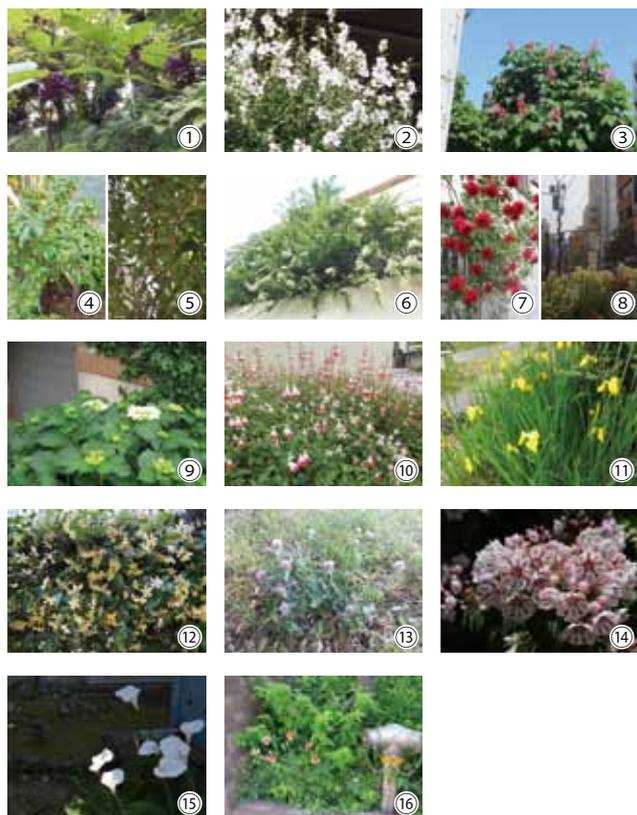


有栖川宮記念公園のいちよう



撮影年：平成 27 年(2015 年)

まちの花



- ①：ムラサキシキブ
- ②：ムクゲ
- ③：ベニバナトチノキ
- ④：ソヨゴ
- ⑤：桜の実
- ⑥：トサシモツケ
- ⑦：バラ
- ⑧：葉ボタンの花
- ⑨：アジサイ
- ⑩：チェリーセージ
- ⑪：黄菖蒲
- ⑫：テイカカズラ
- ⑬：ムラサキツメクサ
- ⑭：カルミア
- ⑮：カラー
- ⑯：ナガミヒナゲシ

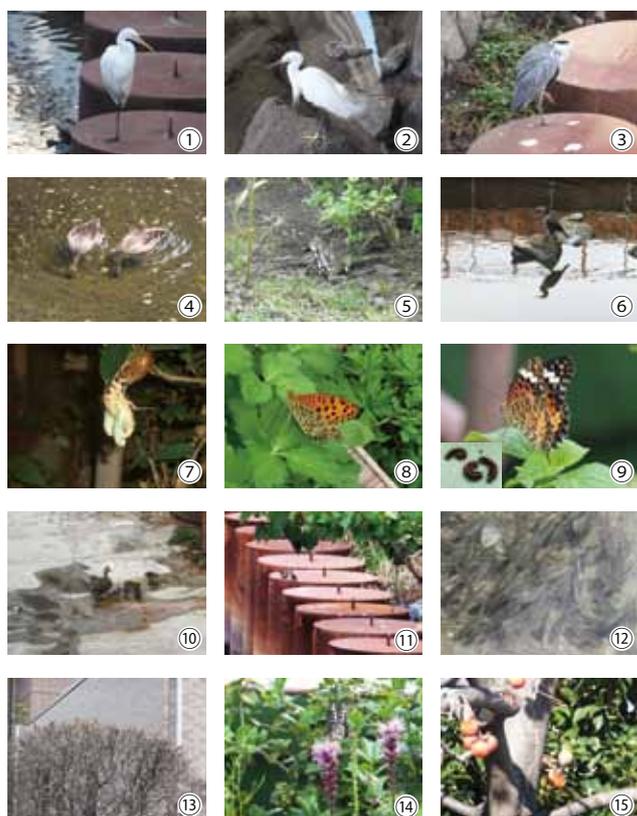
麻布未来写真館では、メンバーで年に数回テーマを決めまち歩きを実施している。

朝、テーマにあわせた集合場所に集まり、計画したルートでカメラ片手に歩いて行く。

皆で歩きまわり撮影をしていると、テーマ以外にもメンバーが興味をひかれた「建物・石・彫刻・いきもの・植物」などの写真が大量に集まった。そんな写真を持ち寄り、組写真に再構成した。

撮影年：平成 27 年(2015 年)

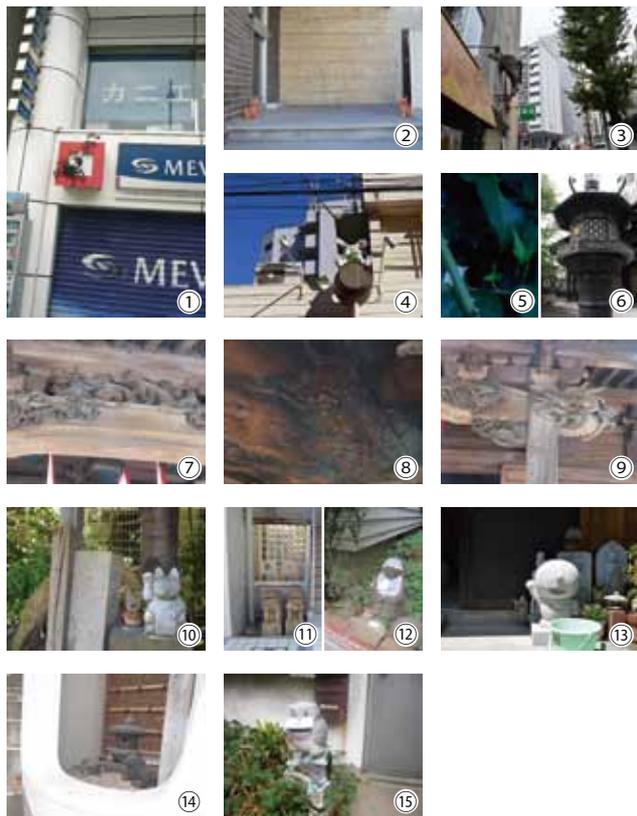
いきもの



- ①：ダイサギ
- ②：コサギ
- ③：アオサギ
- ④：カルガモ
- ⑤：ヒキガエル
- ⑥：カワウ
- ⑦：セミの羽化
- ⑧：ツマグロヒョウモンのオス
- ⑨：ツマグロヒョウモンとその幼虫
- ⑩：カルガモの親子
- ⑪：カワセミのプロポーズ
- ⑫：ボラの大群
- ⑬：すずめの学校
- ⑭：ナミアゲハ
- ⑮：メジロ

撮影年：平成 23 年(2011 年)～平成 27 年(2015 年)

麻布のモニュメント(いきもの)



- ①：麻布十番付近
- ②：西麻布付近
- ③：六本木五丁目付近
- ④：西麻布付近
- ⑤：西麻布付近
- ⑥：善福寺
- ⑦：広尾神社
- ⑧：広尾神社
- ⑨：広尾神社
- ⑩：天現寺
- ⑪：西麻布付近
- ⑫：麻布十番付近
- ⑬：天現寺
- ⑭：元麻布付近
- ⑮：元麻布付近

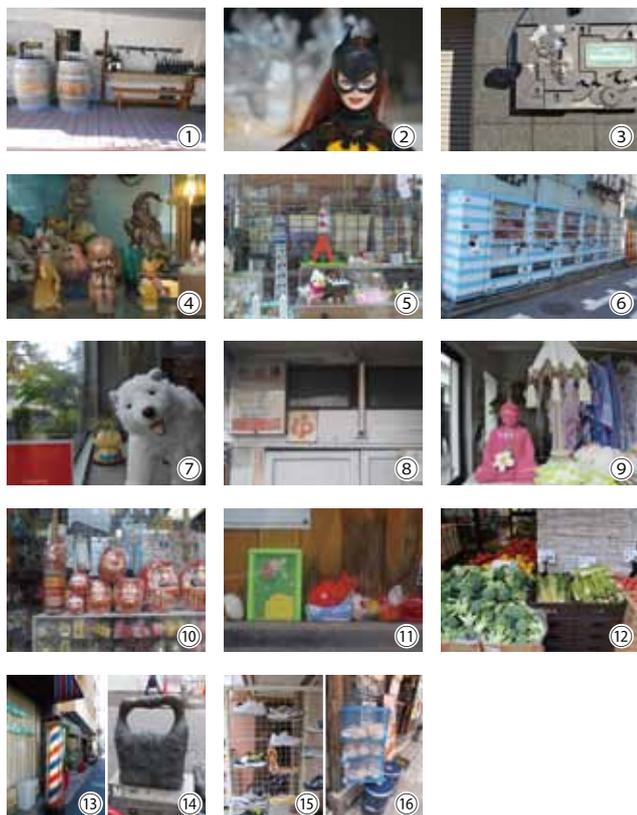
麻布未来写真館では、メンバーで年に数回テーマを決めまち歩きを実施している。

朝、テーマにあわせた集合場所に集まり、計画したルートでカメラ片手に歩いて行く。

皆で歩きまわり撮影をしていると、テーマ以外にもメンバーが興味をひかれた「建物・石・彫刻・いきもの・植物」などの写真が大量に集まった。そんな写真を持ち寄り、組写真に再構成した。

撮影年：平成 27 年(2015 年)

麻布のモニュメント(お店のサイン)



- ①：西麻布付近
- ②：麻布十番付近
- ③：西麻布付近
- ④：西麻布付近
- ⑤：麻布十番付近
- ⑥：西麻布付近
- ⑦：麻布台付近
- ⑧：三田付近
- ⑨：六本木五丁目付近
- ⑩：麻布十番商店街
- ⑪：元麻布付近
- ⑫：麻布十番商店街
- ⑬：西麻布付近
- ⑭：麻布十番商店街
- ⑮：麻布十番商店街
- ⑯：麻布十番商店街

撮影年：平成 27 年(2015 年)

麻布のモニュメント(特徴的なデザイン)



①：南麻布付近(港区各所で見られます)

②：南麻布付近

③：麻布台付近

④：麻布運動場付近

⑤：毛利庭園

⑥：麻布十番付近

⑦：柳の井戸(善福寺)

⑧：西麻布付近

⑨：麻布十番付近

⑩：三田付近

⑪：元麻布付近

⑫：善福寺

⑬：麻布十番付近

⑭：六本木一丁目付近

⑮：飯倉片町交差点付近



撮影年：平成 27 年(2015 年)

麻布十番のモニュメント



①：麻布十番商店街

②：麻布十番商店街

③：麻布十番商店街

④：パティオ麻布

⑤：麻布十番商店街

⑥：麻布十番商店街

⑦：麻布十番商店街

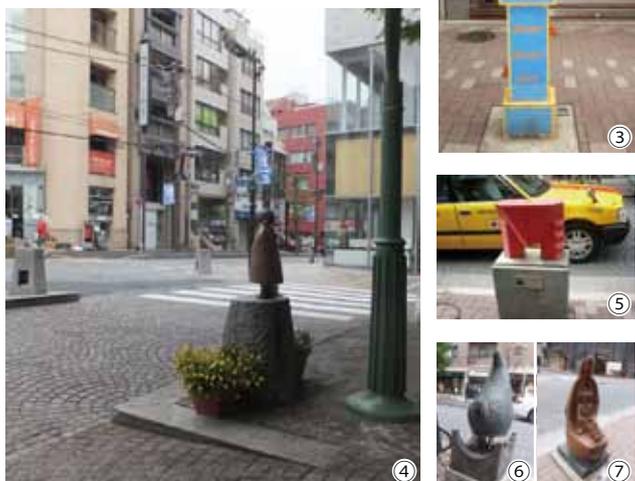
⑧：麻布十番商店街

⑨：麻布台付近

⑩：麻布十番商店街

⑪：麻布十番商店街

⑫：麻布十番商店街



撮影年：平成 27 年(2015 年)

Ⅲ これまでの活動を振り返って

副座長 小山 浩

麻布仙台坂を降りていた内田百間が女性に誘われて、本人は十番に行くつもりが古川に行きましょと誘われた。可愛い人だったので付いていったら何か良く分からない場所で、困ったそうです。これは多分百間の夢の話です。でも何か南麻布は変な感じもありますがのんびりしていて鳥が多い地域ですね。マンションばかりですが猫はかなりいます。来年度も頑張ります。



写真は麻布鎮守氷川神社の山車です。
秋祭りの時に見られます。

メンバー 櫻井 綾

毎年の事になりましたが、子連れでの参加となりました。今年は子供の体調・成長とともに参加が難しい場面も多く、参加回数が限られてしまいましたが、温かく迎えてくださったメンバー、事務局の皆さま、その他関わってくれた皆さまに感謝



あるのみです。

そのような中、今年は母校の恩師に連絡を取ったり、とある学会の発表に出かけ拝聴したり…と、パネル作成にあたり調べ事をした一年でした。この「麻布未来写真館」に参加し、点から面的広がりを持った事は以前にも触れましたが、さらに歴史的広がりを持って麻布を見直した経験は、より一層深い経験となりました。

かつて西麻布三丁目にあり、江戸東京たてもの園に移築された三井八郎右衛門邸。体温を越す気温の中、機会があり訪問いたしました。

(2015年8月撮影)

メンバー 入江 誠

今年度は自然環境に目を向け、樹の花、野草、水鳥などを求めて歩いて感じたこと。

水鳥たちは古川下流域では潮の満ち引きの影響もあり、見かける事は少なかった。餌を求めて来るのは天現寺橋から古川橋まで、カルガモ・コサギ・ダイサギ・カワウ、そして、常連のアオサギなどである。カワセミのつがいを見かけたのは今回一番の感動でした。カルガモの他は数羽しか見かけられませんが、この環境がもう少しでも改善され、もっと沢山の水鳥たちがやってきて、目を楽しませてくれることを願っています。5年後、10年後、鳥たちの楽園になった古川を思い浮かべながら、カメラのシャッターを切っています。



2016年3月、白金公園橋下にやって来た「カワセミ」

メンバー 岡崎 純子

年々高層ビルが増えていく麻布で、高いところから撮影した写真の中に緑を見つけると何かほっとします。まだまだ麻布には、たくさん緑の場所が残っています。今後も変わりゆくまち並みだけでなく、残っている貴重な木々、自然の姿をも撮り続けられたらと思っています。この一年、多くの人に支えられて、活動を続けることができたことを、心より感謝致します。

2016年1月
六本木ヒルズより



メンバー 荒澤 経子



「麻布未来写真館」は時代と地域の事々で歴史の断片を多く語りかけます。メンバー撮影写真だけでなく、提供による写真が増え、地域密着型による人の心が生きたまちの芸術を作り出しているように思います。これからも驚きや発見に出会えるこの活動を続けていきたいと思っています。

2015年クリスマス
六本木 KENTOS

メンバー 鈴木 順二

「麻布未来写真館」の活動を通して、町並みの「美しさ」に以前より敏感になってきたと感じます。

ここ10数年のあいだに、麻布・六本木には新しい美術館があいついで開館しました。「再開発」で街区が生まれ変わったおかげです。水準の高い優れた美術品に接することで、人々の心が豊かになり、住民の感性もますます磨かれてゆくでしょう。

麻布・六本木では、これからも再開発の計画がいくつかあるようです。どのような文化施設が併設されることになるのか、今から楽しみです。同時に、気がかりなこともあります。建設される建物のデザインです。特に目立つ高層建築については、外観もアートのまちにふさわしいものになってほしいものです。厳めしい甲冑や鋭利な刃物をイメージさせる冷たい建造物ではなく、見る者の心を和ませるような、優しく心地よい建築作品の誕生を願っています。明るい麻布の未来を象徴するように。



メンバー 椿 由美子

初夏のまち歩きでは、青山公園奥の小高い丘に群生していたムラサキツメクサの可憐な姿が、秋のまち歩きでは、善福寺の逆さ銀杏が紅葉半ばを迎えるなか、住宅街の庭先にふんわりと咲くルリマツリのやさしい姿が印象に残っている。

花や緑、鳥のさえずりに心なごむ昼の麻布も素敵だが、日が落ちて街灯に灯りがともり、華やぐ麻布もまた良い。

私にとって、夜の麻布は音楽のまちでもある。今年度はこれまでと趣向を変えて、「麻布のナイトカルチャー」というテーマでのパネルづくりを担当させていただいた。学生だった80年代前半、西麻布界隈のクラブで最先端の音楽にふれ、斬新な照明やインテリアなどに刺激を受けた思い出。あらゆるジャンルのレコード、CDを扱っていた六本木 WAVE には、1999年の冬に閉店するまで、仕事帰りに毎日のように足を運んだ。

新旧入れ替わってはいるが、今も麻布にはさまざまなライブハウスがある。20年、30年と変わらず良い音楽を楽しませてくれる空間があるのもうれしい限りである。

ひっそりとした寺社の境内で建立当時に思いを馳せる昼下がりの麻布。ネオンの煌めきにときめく夜の麻布。どちらの魅力も尽きることがない。これからも、麻布のまちのさまざまな表情をとらえてゆきたいと思う。



メンバー 横島 久子



急速に変わりつつあるこの麻布を、今を、カメラに収めておきたいと思っています。

今私の住んでいるこのまち並みも数年後にはまったく無くなってしまい、新しい風景に生まれ変わります。その中には麻布郵便局が含まれております。私はこの建物が大好きです。麻布のこの地にふさわしい風格あるこの建物の姿が無くなってしまふことに心が痛みます。

私の残り少なくなった人生の中で、そうした郷愁のような思いと、反面新しく造られるまち並みへの期待に胸ふくらむ思いです。そしてこの新しいまちは、区のテーマでもある安全で安心の長く住み続けられるまちであると同時に高齢者と子どもたちとの交流のできるまちづくりに加わっていきたいと思います。

メンバー 増子 照孔

港区に53年以上住んでいても家と職場の往復で、「麻布未来写真館」に入りいろいろ勉強させていただき楽しかった思い出が多くありますが、以前のような楽しさも半減してきたように思います。

東京タワーを朝夕眺め暮らしてきたので麻布が良いと思っています。あまりにも変化の激しい麻布ですが、少しでも区民に楽しんでもいただける「麻布未来写真館」でなければと思っています。東京タワーができた時上京した父と友人夫妻とタワーに行った思い出があり東京タワーが大好きです。区民の方が「麻布未来写真館」で楽しんでもいただけるにはどうすればいいのかと考えておりますが、ご意見いただければ幸いです。自己満足にならないように心掛けたいと思います。



メンバー 水野 禮子

平成 27 年度、「麻布未来写真館」は算小学校今昔写真、めまぐるしく変貌する最近の建物、緑の公園、名勝・巨木、まちの花、いきもの、はじまりは麻布から等、展示用パネルが完成しました。昔の大名屋敷の面影を残す有栖川宮記念公園等、歴史・文化芸術資源が豊富で、また外国人住民も区内で一番多く、国際都市として六本木、麻布十番等色々な活動が展開されています。私たちはこの麻布に暮らす人々として、文化や歴史をもっと学び、継承していき、皆様にも知っていただき、これからの麻布地区への愛着を深めていきたいと思っております。



2015 年 8 月東京湾花火大会

メンバー 天羽 大器

認知度が上がってきた。今後 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、地域学の重要性が増してきた。「麻布未来写真館」が長年やってきた今昔の写真の重みが重要になってくる。

本年度、都立中央図書館での展示をすることが出来た。

私は本年度、はじまりは麻布からというテーマでマイクロウェーブ幹線創始之地の写真パネルを作成した。来年度は、麻布と人物（女性篇）というテーマで楠本イネ、ラゲザ玉、広岡浅子の三人の業績を取り上げてみたい。また本年度も取り組んだはじまりは麻布からというテーマでパネルを作成したいと思っている。

メンバー 田岡 恵美

【音楽交流の旅は麻布から】麻布地区内には以前お世話になった北欧三ヶ国の大使館があります。フィンランド大使館からは奨学金(CIMO)と滞在許可のお蔭で北欧の各都市や欧州内で演奏旅行することができました。ノルウェー・フィンマルク県内に滞在した時には妖精のような北欧の少数民族の方々が集う大集会で現地の歌手と壇上で、サーミ民族の衣装を着て一緒に演奏したことは貴重な思い出です。

【麻布未来写真館】北欧デザインにインスパイアされるべく麻布の日常デザインを発見し、麻布の音楽的?! フィルターを通してリプロデュースできたら嬉しいです。亡き母が好きだった音楽→シベリウスアカデミーとのご縁→麻布とのご縁→帰国後、お料理の研究やフードスタイリングにも興味を持ち→スマホで写真を撮ったり。という流れで麻布未来写真館を知り辿り着きました。

P.S 芝地区内での地域活動「ご近所ラボ新橋」の 1 スタッフとして Kitchen ♪ Labo を開催しております。お料理写真を撮りに、どうぞお気軽にいらしてください!

メンバー 吉川 一郎

11 月 22 日朝の散歩の帰宅途中、自宅付近で大勢の方がカメラをぶら下げて撮影をしていました。特別写真を撮影するほどの建物、道路、看板など何もないところでそれぞれに喋りながら撮影をしていました。不思議に思い、話しかけてみました。誰に話をしたか、誰から返事を頂いたか記憶がありませんが、昔ここに慶應義塾大学のラグビー場があったとのことでした。昔の麻布を調べ現状の写真撮影をしているとのことでした。麻布のほとんどの場所は歩いたと自負していたにもかかわらず、自宅近くにラグビー場があったなんて、その場でその会に参加を依頼しました。区役所の職員の方が懇切丁寧に説明をしてくださり、その後参加させて頂けるようになりました。皆様方に感謝しています。

座長 近藤 敏康



「麻布未来写真館」は、平成 21 年の創立以来、区民協働事業として、麻布の今を麻布にゆかりのあるメンバーならではの視点で記録しつつ、同時に麻布にまつわる古い写真も集めてまいりました。7 年目を迎え、今まで以上に、写真パネル、報告書、ホームページ、デジタルメディア等を通じて、麻布地区の記録、広報にご協力するとともに、地元へ愛着を持つきっかけづくり、将来の麻布人の方々に、現在の麻布人からのメッセージを込めた活動など、新しいチャレンジにも取り組んでおります。これからも「麻布未来写真館」事業へのご支援、ご指導、ご協力、古い写真や、古い麻布の音の録音テープのご提供など、ご協力のほど何卒よろしくようお願い申し上げます。また、新規メンバーも募集しておりますので、お気軽に活動を見学においでいただけると幸いです。

講師 達川 清

まち歩き(撮影)で麻布地区を隅々までメンバーとともに歩きながら、若き日の街並みを回想していることがよくあります。

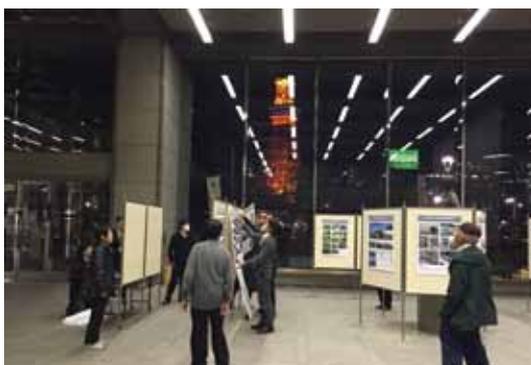
度々「六本木 PIT INN」の LIVE 演奏に出かけた青春時代。隣にあったクレイジーホースの電飾看板が好きでした。

海外からのジャズミュージシャン達のスナップショット。
1978 年頃



(左・右)まち歩きの様子

(左)展示作業の様子
(右)分科会の様子



分科会活動記録（平成 27 年度）

平成 27 年	4 月 13 日	第 1 回分科会	（メンバー紹介、平成 27 年度の活動について）
	5 月 9 日	第 2 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影）
	5 月 10 日	第 2 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影）
	5 月 25 日	第 3 回分科会	（撮影結果・今後の活動について）
	6 月 24 日	第 4 回分科会	（今後のスケジュール及び活動について）
	9 月 29 日	第 5 回分科会	（今後のスケジュール及び活動について・パネル作成について）
	10 月 20 日	第 6 回分科会	（まち歩きについて）
	11 月 22 日	第 7 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影）
	11 月 28 日	第 7 回分科会	（まち歩き・第 2 回撮影）
	12 月 1 日	第 8 回分科会	（撮影結果・パネル作成について）
平成 28 年	1 月 12 日	第 9 回分科会	（パネル作成について）
	2 月 5 日	第 10 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
	2 月 5 日	第 1 期パネル展	フジフィルム スクエア ミニギャラリー（～ 2/18）
	2 月 15 日	第 1 期パネル展	港区麻布地区総合支所 ロビー（～ 2/26）
	2 月 29 日	第 2 期パネル展	港区役所 ロビー（～ 3/11）
	3 月 3 日	第 11 回分科会	（パネル展について）
	3 月 15 日	第 3 期パネル展	東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー（～ 3/28）
	3 月 15 日	第 3 期パネル展	麻布子ども中高生プラザ等複合施設 図書・展示コーナー（～ 3/27）
	3 月 22 日	第 12 回分科会	（活動を振り返って）

※今年度は 3 期にわたるパネル展・常設展示のほかに、地元企業等へのパネルの貸し出しや都立中央図書館での展示を行いました。



都立中央図書館



みずほ銀行 広尾支店

パネル展等の様子



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



フジフィルム スクエア ミニギャラリー

IV

参考資料



東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー



東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー



港区役所 ロビー



港区麻布地区総合支所 ロビー



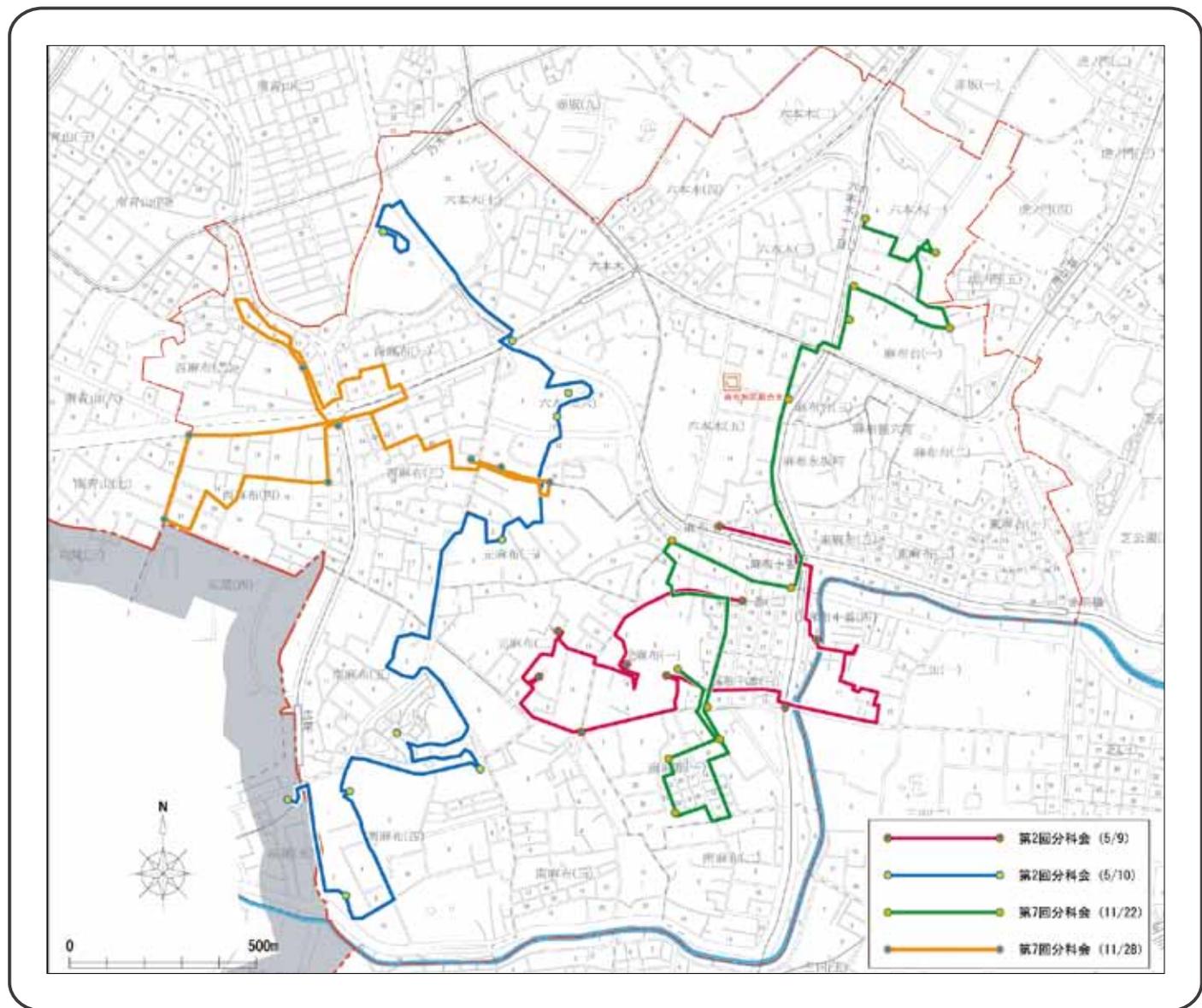
麻布子ども中高生プラザ等複合施設



麻布子ども中高生プラザ等複合施設

まち歩き(撮影)ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き(撮影)」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成27年度活動報告

刊行物発行番号
27295-1435

平成28年(2016年)3月発行

発行 港区麻布地区総合支所 協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木5丁目16番45号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》:「増補 写された港区三(麻布地区編)～麻布・六本木ほか～」,「港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>)」など
《古い写真等についての提供及び資料等》:河村 かずふさ氏、桜井 昭一氏、豊田 幸雄氏、田口 重久氏、前田 三枝子氏、東洋英和女学院、港区立斧小学校、慶應義塾大学体育会蹴球部黒黄会、国立天文台天文情報センター、東日本電信電話株式会社、海上保安庁海洋情報部(順不同)
《技術・会場協力等》:達川清氏(フォトグラファー)、フジフィルム スクエア(富士フィルム株式会社)、学校法人東洋英和女学院、麻布子ども中高生プラザ等複合施設、都立中央図書館(順不同)

©禁無断転載複製

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

「麻布未来写真館」

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成27年度活動報告 港区麻布地区総合支所

これまで作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

港区公式ホームページ
<http://www.city.minato.tokyo.jp/>



麻布未来写真館

検索 🔍

「麻布未来写真館」はこちら

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！
未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。
詳細につきましては、協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ

TEL : 03-5114-8812